

酒井根で四国遍路ひとまわり

道程一四四〇キロのお大師様の四国遍路に行けない人のために、その八十八霊場を、一か所に集め、のんびりとお遍路気分を味わえる薬師堂が酒井根にある。

百五十年ほど前の安政年間に堂守りになった河瀬鳳瑞師が、霊場を巡拝し、砂を持ち帰り、写しの石像を建立、その下に埋めたという。

石像には寄進者の名前が刻まれ、十五基は酒井根の人で、流山、松戸の人の名も見られる。十年以上かかって出来たそう、弘法大師信仰の思いが伝わってくるが、石像も風化してしまい、寂しい景色となっている。

石段を二十段も登ると、薬師堂を中心はかなり広い空間があり、その回りに八十八の石像が並んでいる。木陰もあれば陽光燦々たるところもあり、折れてしまったもの、消えてしまったところもある。

四国遍路と同じように、阿波（徳島）、讃岐（香川）と続いている。で、続いて土佐（高知）、伊予（愛媛）、一番の霊山寺は釈迦如来（写真左）を祀っている。ご詠歌の「霊山の釈迦のみ前にめぐり来てよるずの罪も消え失せけり」が彫つてあるのだが判然としない。最後は大窪寺で結願だが、ここではサービスのようにもう一体があり、あの独鈷（とっこ）を持った弘法大師が鎮座、スピード遍路し終わると「やあこんにちは」という感じになる。



四国遍路のミニチュア版は各地で作られた。近辺では観音寺も札所になっている南相馬大師や北相馬大師があり、運河大師や新四国霊場、旧吉橋大師がある。観音様を参拝する西国巡礼33、板東巡礼33、秩父巡礼34も盛んで、西国、板東、秩父を合わせて百観音を巡礼する。

